



『新宿力』で創造する
やすらぎとにぎわいのまち新宿

令和4年第1回区議会定例会
新宿区長定例記者会見資料
令和4年2月17日

事業名	鉄道施設の整備促進	予算(案)の概要	110 ページ
予算額	令和4年度予算額 (前年度予算額)	5,426 千円 27 千円	(拡充)
取材先	都市計画部都市計画課長 小俣 (電話 03-5273-3543)		

西武新宿線の開かずの踏切対策を検討していきます

○ 西武新宿線の踏切の現状

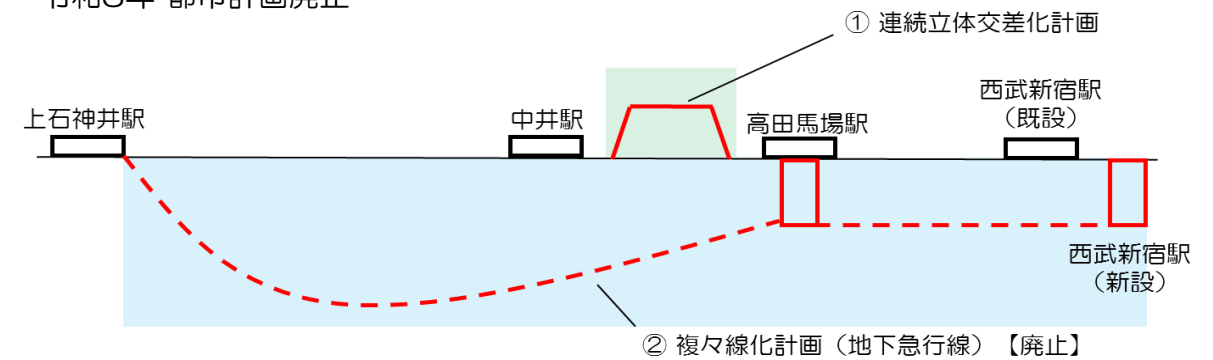
・西武新宿線の高田馬場駅から西側の区内区間の14踏切は、全ていわゆる開かずの踏切※となっており、路線バスの運行に支障をきたすなど、地域の方々の日常の暮らしや災害時の活動にとって大きな課題となっています。(※ 1時間あたりの最大踏切遮断時間が40分以上の踏切)



・下落合駅西側直近の上落中通りの踏切では、ピーク時の遮断時間が1時間のうち50分にも及び自動車等の渋滞が発生しています。また、その影響により近接する新目白通りでも渋滞が発生しています。

○ 西武新宿線の都市計画の状況と今後の方向性

- ① 連続立体交差化計画 (高架化)
 - ・昭和45年 都市計画決定 (高田馬場駅～中井駅間)
 - ・昭和46年 事業認可
 - ・昭和54年 事業失効 (※ 都市計画は残っています)
- ② 複々線化計画 (地下急行線)
 - ・平成5年 都市計画決定 (西武新宿駅～上石神井駅間)
 - ・令和3年 都市計画廃止



令和3年11月に複々線化計画を廃止する都市計画が決定し、今までどおり全ての電車が地上を走り、開かずの踏切対策の必要性が高まります。



【今後の対策の方向性】

- ・既に決定している、高田馬場駅から中井駅間の連続立体交差化の再検討
- ・中井駅西側の区内の踏切対策の検討

○ 令和4年度の主な取組み

【開かずの踏切の影響調査】

- 周辺道路の交通の影響等について、調査を行います。
- ・渋滞長調査
 - ・踏切迂回車両の交通量調査 など



【まちづくりの検討】

鉄道立体化は、地域におけるまちづくりと大きく連動することから、地域の将来像や鉄道立体化を契機としたまちづくりの方針を検討します。

